

教室の窓辺

考動力のある子どもたちに

安城市立文山小学校 教諭 石川 昂季

今年度は教員生活7度目の6年生担任。これまでの経験を糧に最高の学級・学年をつくろうと日々子どもたちと向き合っています。

私は、子どもたちが自ら考え、進んで動いていく「考動」という言葉を大切にしています。5月に行われた文山小スポーツフェスティバルの「学級対抗リレー」では、多くの場面で子どもたちが自ら考動し、輝いている姿が見られましたので、紹介いたします。

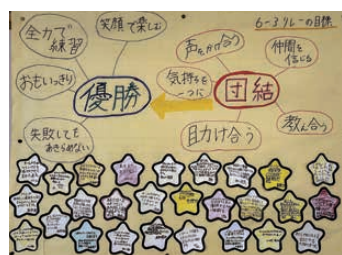
4月、リーダーを集め、「リレーの目標は何にする?」と声をかけました。リーダーは考動し、話し合いを何度も重ね「団結」「優勝」という二つの目標を柱とすることに決まりました。ほんなく子どもたちは目標達成に向けて練習を始めました。しかし、子どもたち同士の思いの差から、練習に集まる時間が遅くなったり、やる気のないような練習をしたりといった姿が見られます。そこで、リーダーの思いに寄り添い、「目標を達成させるためには何をしたらいいと思う?」と投げかけると、新たな考動が始まり、案をもって何度も相談に来るようになりました。練習が始まって一週間後、リーダーは「先生、チームのみんなと話し合いたい。」と言い出し、何度もチームで会議

をするようになりました。リーダーは友達の思いを聴きながら、問題点を解決しようと、さまざまなアイデアを出しました。そんなリーダーの動きを見て、学級全体に火が付いたのです。

子どもたちのアイデアは無限大です。バトンパスのコツを学級の情報共有アプリ(チームズ)にアップする子、ホワイトボードにコツをまとめて確認できるようにする子、応援グッズや応援歌を作り始める子、円陣で気合を入れようと提案する子など、一人一人が考動する姿が増えてきました。

このような子どもたちを見て、私が大切にしたのは、一人一人の考動をキャッチし、そのがんばりや温かさを学級通信や言葉がけで学級に広めていくことです。本番前、仲間を鼓舞する一人のメッセージがたくさんの子どもの心を動かし、最高潮の状態で本番に向かうことができました。結果は三位でしたが、子どもたちの振り返りには、「がんばった結果だから受け入れられたし、とても清々しかった。」「一人の考動が、みんなの考動に変わったのがすごい。」「団結という意味では、ぼくたちは優勝だ。」との記述があり、達成感や自分たちの成長を感じている言葉が溢れていました。この一年で、この子たちはどれだけ伸びるのか、とても楽しみです。

私は、見通しをもち、効果的に行事を活用すれば、子ども一人一人はもちろん、学級・学年が大きく成長すると考えています。教師自身が目指す子どもの姿をイメージし、そのために何が必要か準備して考動すれば、子どもはどんどん伸びていくでしょう。この先も、子どもたちと本気で向き合い、ともに成長していきたいです。



みんなで決めた目標



リレー後にみんなで乾杯!

石川昂季教諭は、本校に赴任して7年目となりました。今年度は、昨年度に引き続き6年生の学年主任として活躍中です。石川教諭が大切にしている言葉に「考動」があります。子どもが望んでいることは何か、悩んでいることは何かを常に考え、子どもに寄り添い、子どもの成長をイメージしてアグレッシブに考動しています。

5月のスポーツフェスティバルは、学級づくりの第一歩となる行事でした。授業日以上の発行を数える学級通信は、子どもたちの考動を支え、認め合いの輪を広げています。また、子どもの思いを広げるタブレット端末によるチームズの活用、目標を共有し明確にするための掲示物など、多彩な手だてを駆使して子どもたちの考動を促し、成長を認めています。さらに、結果ではなく過程、記録よりも記憶、自らが考動することを大切にする姿勢が子どもたちを大きく伸ばしています。

子どもたちを成長させるための労力を厭わず、授業研究、行事の企画や運営にとアグレッシブに考動する石川教諭の今後の活躍に期待しています。

(校長 長友 欽哉)